

商店街活性化や街づくり

聖徳大生有志が一役

ボランティアグループ「ピース」が発足

聖徳大（松戸市）の学生有志約20人が、地域のイメージアップや商店街の活性化に役立つと、松戸駅周辺の美化活動やイベント企画などを行うボランティアグループ「聖徳ピース」を5日、発足させた。

メンバーは、地元の「松戸まつり」への企画参加などをしてきた「生涯学習研究会同好会」の部員が中心で、市や松戸商工会議所と連携し、商店街や地域住民との橋渡し役となることを目指している。



決意を語る聖徳ピースのメンバー

「ピース」は英語で「一切れ、一片」を表す語の複数形で、一人ひとりが集まって活動を続け、やがて大きな広がりになりたいという願いを込めた。商店街各店を紹介する地図の作製、高齢者の買い物支援などの活動も行う予定。大学側は学生にとって、地域活動は学ぶことが多い」としている。

松戸駅西口デッキでの日行われた発足式では、メンバーらはそろいのオレンジ色のユニホームを着て並び、代表して3年生の北詰奈央実さん(20)と1年生の若林多恵さん(19)が「地域の皆様と一緒に、良いまちづくりをしていきたい」とあいさつ。その後、集まった買い物客の「ピース」の「ピース」を披露した。